

平成 24 年度 秩父地域森林活用等創出支援事業

カエデ樹液活用による新たな地域林業モデルの創設

秩父樹液生産協同組合



事業の目的・内容

秩父地域のカエデ自然分布の調査、カエデの育成に関する調査研究、採取した樹液の保管技術の確立、樹液を使った商品開発の仕組みづくりなど、新たな林業モデルの基礎的な情報と技術の整備を行う。



今までの活動状況

<平成 24 年度>

- ・カエデ分布調査とデータベース化。
- ・カエデが優占的に多く分布する地域 3 か所で毎木調査を行い、ヘクタールあたり 100 本から 200 本の造林が可能であることが確認でした。
- ・3D スキャナによる森林計測を秩父地域ではじめて実施し、今後の森林情報整備の方向に有益となった。
- ・「山と街をつなぐ森の情報」をテーマに第 3 回「森を語ろう」シンポジウム（12 月 9 日）を実施し、秩父地域内の多くの林業関係者や工務店、一級建築士と連携し、秩父の森をどのように生かすのかを真剣に討議することができた。



これからの活動・行事

樹液生産環境の基盤整備、樹液の長期保管技術確立のための研究、生産量の拡大と品質管理システムの確立を図る。

※平成 25 年度秩父地域森林活用等創出支援事業